

鉄筋挿入工に関する特記仕様書

I. 適合性試験

1. 本工事では、鉄筋挿入工の設計に用いた地盤の極限周面摩擦抵抗の値を確認するため、適合性試験^{※1}を実施するものとする。なお、これに係る費用は、別途、技術管理費に積上げ計上している。
2. 試験位置
適合性試験を行う位置については、監督職員との協議により決定するものとする。
3. 試験計画書の提出
受注者は、試験計画書を監督職員に提出しなければならない。また、試験計画書の記載事項については、「地盤工学会 地山補強土工法設計・施工マニュアル（平成 25 年 10 月）」^{※2}第 7 章引抜き試験によるものとする。
4. 試験方法・試験結果の整理と判定
適合性試験の試験方法・試験結果の整理と判定については、「地盤工学会 地山補強土工法設計・施工マニュアル（平成 25 年 10 月）」第 7 章引抜き試験によるものとする。
5. 監督職員等による立会
適合性試験の実施にあたっては、下記の事項について監督職員等の立会を受けるものとする。

時 期	確認項目	立会の程度
削孔時	削孔状況	地層毎に 1 本
削孔完了時	削孔深さ、せん孔方向	
適合性試験用鋼材組立時 及び挿入時	使用材料、挿入状況	
グラウト注入時	流下時間	
適合性試験時	引抜き耐力	

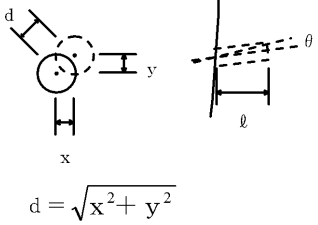
6. 監督職員への報告
受注者は、試験結果の整理と判定及び立会を受けた状況を監督職員に報告しなければならない。
7. 上記によりがたい場合は、監督職員と協議しなければならない。

※1 適合性試験とは、鉄筋挿入工の設計に必要な設計定数を決定するための試験であり、「地盤工学会 地山補強土工法設計・施工マニュアル（平成 25 年 10 月）」第 7 章引抜き試験による。

※2 同書の改訂がなされた場合には、最新版によるものとする。

II. 施工管理基準

1. 出来形管理基準

工種	測定項目	規格値	測定基準	測定箇所	摘要
鉄筋挿入工	削孔深さ λ	設計値以上	全数（任意仮設は除く）	 $d = \sqrt{x^2 + y^2}$	
	配置誤差 d	100 mm			
	せん孔方向 θ	$\pm 2.5^\circ$			

2. 品質管理基準

工種	種別	試験区分	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要	試験成績表等による確認
鉄筋挿入工	施工	必須	グラウトの圧縮強度試験	JSCE-G505-1999	設計図書による。	1回/日		
			グラウトの流動性試験	JSCE-F521-1999		グラウト注入前に試験は2回行い、その平均値を流下時間とする。		
			受入れ試験	地山補強土工法設計・施工マニュアル		計画最大荷重を載荷して、所定の時間、荷重を保持できること。 ・施工数量の5%かつ3本以上。 ・初期荷重は5.0kN、もしくは計画最大荷重の約0.1倍とし、計画最大荷重まで載荷した後、初期荷重まで除荷する1サイクル方式とする。		

3. 写真管理基準

①品質管理写真

工種	写真管理項目			摘要
	撮影項目	撮影頻度〔時期〕	整理条件	
鉄筋挿入工	グラウトの流動性試験	適宜 〔試験実施中〕	不要	
	グラウトの圧縮強度試験			
	受入れ試験			

②出来形管理写真撮影箇所

工種	写真管理項目			摘要
	撮影項目	撮影頻度〔時期〕	整理条件	
鉄筋挿入工	削孔深さ	5%かつ3本以上 〔削孔後〕	代表箇所 各1枚	
	配置誤差	5%かつ3本以上 〔施工後〕		
	鋼材組立状況	5%かつ3本以上 〔組立完了後〕		

Ⅲ. 段階確認

種別	細別	確認時期	確認項目	確認の程度
鉄筋挿入工		削孔完了時	削孔深さ、せん孔方向	一般：1回／40本 重点：1回／20本
		鋼材組立時及び挿入時	使用材料、設計図書との比較、挿入状況	※削孔完了時からグラウト注入時までを同一孔で確認する。
		グラウト注入時	流下時間	
		受入れ試験時	計画最大荷重	一般：1回／1工事 重点：2回／1工事

・一般（監督）：重点監督以外の工事

・重点（監督）：下記の工事

（イ）主たる工種に新工法・新材料を採用した工事 （ロ）施工条件が厳しい工事

（ハ）第三者に対する影響のある工事

（ニ）その他